

各 位

上場会社名 アルファグループ株式会社
 代表者 代表取締役社長 上 岳史
 (コード番号 3322)
 問合せ先責任者 取締役管理本部長 西原 哲司
 (TEL 03-5469-7300)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月21日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,134	85	78	23	806.53
今回発表予想(B)	10,533	256	262	152	5,151.80
増減額(B-A)	399	171	184	129	
増減率(%)	3.9	201.2	235.9	560.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	11,796	△4	△22	△34	△1,175.25

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,221	273	294	106	3,612.87
今回発表予想(B)	21,517	343	383	156	5,309.07
増減額(B-A)	296	70	89	50	
増減率(%)	1.4	25.6	30.3	47.2	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	22,307	143	160	234	7,883.00

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,828	17	20	10	341.26
今回発表予想(B)	2,669	32	39	23	796.90
増減額(B-A)	△159	15	19	13	
増減率(%)	△5.6	88.2	95.0	130.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	—	—	—	—	—

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	—	—	—	—	—
今回発表予想(B)	—	—	—	—	—
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	—	—	—	—	—

修正の理由

(1)連結業績予想の修正について

当社グループの第2四半期連結累計期間につきましては、継続する景況感の悪化による影響を加味しておりましたが、主力事業であるモバイル事業におきまして、期首予想を上回る好調な推移を維持いたしました結果、売上高、各段階利益ともに増加しております。また、新規出店計画において、物件選定と交渉に時間がかかりました結果、出店関連諸費用の発生が第3四半期以降になるとともに、フェリカリーダーライターを活用したリアルアフィリエイトサービスにおきましても、取扱店舗の拡大と大規模なシステム投資を予定しておりましたが、内部オペレーションの充実と収益基盤の確立を優先すること、第3四半期以降の投資に繰り延べました結果、営業利益、経常利益、四半期純利益増加の要因となっております。ETC事業におきましては、政府の助成金や景気対策の効果などもあり、期首予想以上に消費者ニーズが高まった結果、営業利益増加に大きく寄与しております。

当社グループ全社としましては、前期から取り組んでおります経営資源の選択と集中をさらに推進し、積極的な業務改善や効率化を行い、販売管理費の節減を推し進めることにより収益性の改善に注力してまいりました。この結果、第2四半期連結累計期間業績予想数値につきましては、売上高105億33百万円、営業利益2億56百万円、経常利益2億62百万円、四半期純利益1億52百万円となり、前回予想を上回る見込みであります。以上の要因により、第2四半期連結累計期間業績予想数値を修正いたします。なお、通期の業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間業績予想数値の修正および第3四半期以降の収益環境を踏まえて修正しております。モバイル事業におきましては、引き続き堅調な推移を予測しておりますが、第3四半期以降に予定が変更されました出店関連諸費用および、リアルアフィリエイトサービスに関するシステム投資費用などの発生を予定しております。人材事業におきましては、一部産業界では改善の兆しが見えつつも、依然として非正規労働者を採用するまで企業体力の回復に至っていない状況が続いております。このような状況下において、さらに営業強化や販売管理費の節減を行い、収益性改善に注力してまいりますが、景気の影響により市場の拡大が見込めない状況において、不透明感がさらに増大することを見込んでおります。ETC事業におきましては、政権交代による高速道路無料化への懸念から、様子見観が広がり、消費者マインドは低下してきており、販売台数の減少を見込んでおります。当社グループにおきましては、継続して事業基盤の強化を推進するとともに、業務改善や効率化を行いながら販売管理費の節減に積極的に取り組んでまいります。この結果、通期の業績予想数値につきましては、売上高215億17百万円、営業利益3億43百万円、経常利益3億83百万円、当期純利益1億56百万円となり、前回予想を上回る見込みであります。

(2) 個別業績予想の修正について

個別業績につきましては、売上高において期首予想を下回りましたものの、経営資源の選択と集中による事業基盤の強化に注力するとともに、販売管理費の節減に注力いたしました結果、営業利益および経常利益におきまして、前回予想を上回る見込みであります。

以上の要因により、第2四半期累計期間個別業績予想数値を修正いたします。

なお、通期個別業績予想数値につきましては、前回発表予想数値から変更しておりません。

(注)業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき予想したものであり、実際の業績はさまざまな要因により、これらの予想値と異なる場合がありますことをご承知お願います。

以上